

1 動機 (経緯)	主に子どもたちを対象に、農業に対する理解や、「食」の大切さを通して「農業」の重要性、「食」にかかわる全ての人への感謝の気持ちを育ててほしい。そして、次世代対策の一環としても、J Aとの関わりを強くし、農業やJ Aに対する関心を高める目的で食農教育活動を実施しています。
2 概要	J A 伊達みらい食農教育プランを掲げ、「体験する食農教育」「知る・学ぶ食農教育」「ふれあう食農教育」を3つの柱に、学校教育支援事業、食農体験スクール事業、旬の農産物提供事業の3事業に取り組んでいます。
3 成果 (効果)	農業に対する関心が高まるとともに、J Aとの関わりの増加や、J Aへの関心の高まりが得られました。 農作業体験を通して、農作物を栽培する苦労や喜びを実感し、「農業」の重要性や「農家」や「食」に対する感謝の気持ちが育まれました。 <実績> ・学校教育支援事業・・・24校、5園で実施しました。(2,408人参加) ・職能体験スクール事業・・・7回開催しました(479名参加) ・旬の農産物提供事業・・・22園にいちご424パックを贈呈しました。
4 今後の 予定(課題)	現段階での食農教育のレベルをステップアップした、次世代に向けた農業後継者育成に繋がる新たな段階での食農教育取り組みも必要と考えています。 (J A 伊達みらい食農教育取組概要図)

